

A区分・C区分共通
No.1(実演芸術・メディア芸術)

令和7年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(実演芸術・メディア芸術 共通)

別添	あり
----	----

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	音楽	種目	オーケストラ等
----	----	----	---------

応募区分(応募する区分を選択してください。)

応募区分	A区分
------	-----

複数応募の状況(該当するものを選択してください。) ※B区分継続団体については、応募企画数から除く

複数応募の有無	無	応募総企画数	
---------	---	--------	--

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数応募の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	
--------------------	--

文化芸術団体の概要

ふりがな 制作団体名	こうえきざいだんほうじんせんだいふいるはもにーかんげんがくだん 公益財団法人仙台フィルハーモニー管弦楽団	団体ウェブサイトURL	https://www.sendaiphil.jp/
代表者職・氏名	理事長 増子 次郎		
制作団体所在地	〒 980-0012 宮城県仙台市青葉区錦町1丁目3-9	最寄り駅(バス停)	地下鉄南北線「勾当台公園」
電話番号	022-225-3934		
ふりがな 公演団体名	せんだいふいるはもにーかんげんがくだん 仙台フィルハーモニー管弦楽団	団体ウェブサイトURL	https://www.sendaiphil.jp/
代表者職・氏名	理事長 増子 次郎		
公演団体所在地	〒 制作団体に同じ 制作団体に同じ	最寄り駅(バス停)	制作団体に同じ
制作団体 設立年月	平成22年9月		
制作団体組織	役職員 [理事]19名 [評議員]17名 [監事]2名 [事務局職員]21名	団体構成員及び加入条件等 [団体構成員]64名 [加入条件]採用オーディションによる	
事務体制 事務(制作)専任担当の有無	事務(制作)専任の担当者 を置く	本事業担当者名	事業部 演奏事業グループ 千葉 和帆
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理担当者	総務部 次長 曳地 淳
本応募にかかる連絡先 (メールアドレス)	info_sc@sendaiphil.jp		

公益財団法人 仙台フィルハーモニー管弦楽団

制作団体沿革・ 主な受賞歴

仙台フィルは、1973年に市民オーケストラ「宮城フィルハーモニー管弦楽団」として誕生。翌年に初の定期演奏会を開催して本格的に活動を開始した。1983年4月から89年1月に芥川也寸志が音楽総監督として現在の礎を築き、1989年度から2005年度に外山雄三が音楽監督、2006年度から2017年度にパスカル・ヴェロが常任指揮者として、また2018年度から2022年度に飯守泰次郎が常任指揮者としてアンサンブルに磨きをかけてきた。2023年度に高関健が常任指揮者に、太田弦が指揮者に就任。新たなレパートリーによりさらに音楽的深化を推し進めている。

2011年3月11日に東北地方を襲った東日本大震災による影響で、仙台フィルは数ヶ月にわたり演奏活動を中止せざるを得ない状況となったが、「音楽の力による復興センター・東北」と協力し音楽を被災者のもとに届けながら絆をつなぐ活動を行い、2011年度エクソンモービル音楽賞洋楽部門本賞、渡邊曉雄音楽基金特別支援を受賞した。震災から2年を経た2013年には独立行政法人国際交流基金主催によるロシア公演で被災地を代表して演奏し、震災後に世界から寄せられた支援への感謝の気持ちと、被災地で音楽を奏でる楽団の姿が広く全世界で紹介された。

本拠地、日立システムズホール仙台・コンサートホールでの定期演奏会は2016年に300回を数え意欲的な取り組みが高く評価されているほか、0歳からの演奏会「オーケストラと遊んじゃおう!」、宮城、福島など東北広域で開催される「名曲コレクション」、日本人作曲家の名作を紹介する『日本のオーケストラ音楽』展など多彩な活動を繰り広げている。

2001年から開催されている仙台国際音楽コンクールでホストオーケストラとして出演しているほか、2006年秋からは、毎年「仙台クラシックフェスティバル(せんくら)」でも広く市民に親しまれ、「杜の都」の音楽文化における中心的役割を担っている。その他、県内外での各種コンサートへの出演や文化庁による全国の小中学校訪問なども含め、年間100回を超える活動を展開している。2023年に創立50周年を迎えた。

学校等における 公演実績

- ・令和元年度〈文化芸術による子供育成総合事業—巡回公演事業〉全13公演
- ・令和2年度〈文化芸術による子供育成総合事業—巡回公演事業〉全11公演
- ・令和3年度〈文化芸術による子供育成総合事業—巡回公演事業〉全10公演
- ・令和3年度〈子供のための文化芸術鑑賞・体験支援事業〉全11公演
- ・令和4年度〈文化芸術による子供育成総合事業—巡回公演事業〉全6公演
- ・令和4年度〈文化芸術による子供育成総合事業—文化施設等活用事業〉全2公演
- ・令和5年度〈舞台芸術等総合支援事業—学校巡回公演〉全7公演
- ・令和5年度〈文化芸術による子供育成総合事業—文化施設等活用事業〉全3公演
- ・令和6年度〈舞台芸術等総合支援事業—学校巡回公演〉全9公演
- ・令和6年度〈学校における文化芸術鑑賞・体験推進事業—文化施設等活用事業〉全4公演

特別支援学校等における 公演実績

- ▼平成28年度〈文化芸術による子供の育成事業—巡回公演事業〉
福井県・南越特別支援学校
- ▼令和元年度〈文化芸術による子供育成総合事業—巡回公演事業〉
宮城県・仙台市鶴谷特別支援学校
- ▼令和2年度〈子供のための文化芸術体験機会の創出事業〉
宮城県・宮城教育大学特別支援学校
- ▼令和2年度〈文化芸術による子供育成総合事業—巡回公演事業〉
茨城県・茨城県立結城特別支援学校

参考資料の有無

申請する演目のWEB公開資料

有

※公開資料有の場合URL

<https://youtu.be/vR6PYKnEGBY>

※閲覧に権限が必要な場合のIDおよび
パスワード

ID:

PW:

別添	あり
----	----

公演・ワークショップの内容

【公演団体名 仙台フィルハーモニー管弦楽団】

対象	小学生(低学年)	○	小学生(中学年)	○
	小学生(高学年)	○	中学生	○
企画名	教科書から音楽が飛び出してきた！ ～仙台フィルハーモニー管弦楽団・オーケストラコンサート～			
企画のねらい	普段使用している教科書で見たことのある楽器や、CDでしか聴いたことのない作品の生演奏に触れていただくことで、音楽への興味・関心を高め、積極的にオーケストラ音楽や芸術活動に興味を持つきっかけを作ることをねらいとしています。今回は音楽の授業で取り上げられる機会の多い作曲家の作品や、普段の生活で一度は耳にしたことのある作品を中心に聴いていただきます。様々な国や時代の作曲家の作品を選んでおり、それぞれの音楽の違いや共通している点を感じ取っていただきながら、子どもたちの感性を働かせ、音楽への親しみや理解を深めていただきたいと思います。また、聴くだけでなく、「共演」を重ねることで、児童・生徒の皆さんと楽団員との音楽を通じての交流も行います。			
演目概要・演目選択理由	別添(演目選択理由)をご確認ください。			
児童・生徒の参加又は体験の形態	<p>オーケストラを鑑賞するだけではなく、体験的な活動を通じて音楽に触れていただきます。今回は児童・生徒の皆さんと4つの共演を行います。</p> <p>③ドラムマーチ(手拍子参加型) ～ スーザ:行進曲「星条旗よ永遠なれ」 このコーナーでは音楽の要であるテンポを、スネアドラムのリズムに合わせて手拍子で体験していただきます。皆さんにとって一番身近である「手拍子」を使いながら、速いテンポや遅いテンポに変化をつけたり、音の強弱をつけたりする体験を行います。また、スーザが作曲した行進曲「星条旗よ永遠なれ」に合わせて、手拍子で演奏に参加していただきます。演奏のはじめは、指揮者が不在で演奏を進めますが、皆さんが叩くテンポに合わせて音楽が進んでいきます。テンポがいかに重要か、指揮者の役割とは何かを知るきっかけに繋がります。</p> <p>⑥指揮者体験コーナー「君は今日からマエストロ！」 児童・生徒の皆さんの中から2名、そしてサプライズで先生1名の計3名に、実際に指揮者を体験していただきます。体験前に、指揮者がオーケストラにおける指揮者の役割や、基本的な指揮の方法など専門的な指導を行います。体験をする児童・生徒の代表の2名だけではなく、会場にいる皆さんにもその場で指揮の練習をしていただきます。また、プロの指揮者を含めて合計4名が同じ曲を指揮することによって、指揮者が変わる度にオーケストラが奏でる音楽の彩りやテンポの変化に気づくことになり、オーケストラ音楽を聴く楽しみ方を増やすきっかけを作ります。 ※基本的に体験する人数は児童・生徒の代表2名+先生1名ですが、学校の状況や鑑賞者数次第では人数の増減を相談することができます。</p> <p>⑦「オーケストラと一緒に演奏しよう！」杉本竜一:ピリープ オーケストラを伴奏に合唱を共演するプログラムです。今回は、管弦楽部や吹奏楽部との共演も可能です。音楽を通じたコミュニケーションを図ることや、演奏をするうえでプロの演奏者の技術や表現など近い距離で体感するなど、共演を通じて様々な体験をすることができます。</p> <p>⑨アンコール:開催校校歌 普段歌っている児童・生徒の皆さんはもとより、作詞・作曲者の想いが詰まっている、世界に1つしかない校歌を、フル・オーケストラ版にアレンジしてアンコールで共演します。ピアノ伴奏だけでは感じられない重厚なハーモニーや、オーケストラの迫力ある演奏と一緒に歌いましょう。皆さんの一生の記憶に残る時間になるでしょう。</p>			
児童・生徒の参加可能人数	本公演	参加・体験人数目安	全校生徒対象(～800名程)	
		鑑賞人数目安	全校生徒対象(～800名程)	

<p>本公演演目</p> <p>原作/作曲 脚本 演出/振付</p>	<p>ここはいつもの体育館！？オーケストラの世界に一瞬で引き込まれてしまいます！</p> <p>①ヨハン・シュトラウス2世:喜歌劇「こうもり」序曲</p> <p>ヴァイオリン、ヴィオラ、ファゴット…まだまだ知らない楽器がいっぱい！！</p> <p>②【楽器紹介コーナー】「オーケストラの仲間たち！」</p> <p>オーケストラと手拍子でコラボレーション！</p> <p>③ドラムマーチ(手拍子参加型) ～ スーザ:行進曲「星条旗よ永遠なれ」</p> <p>こんなに間近で聴ける、今後ない体験を！</p> <p>④モンティ:チャルダッシュ(楽団員による独奏) ※独奏者は学校ごとに変更します</p> <p>～ 休憩(15分) ～</p> <p>「ジャジャジャジャーン！」って、何回出てくるの…？</p> <p>⑤ベートーヴェン:交響曲第5番「運命」より 第1楽章(楽曲解剖つき)</p> <p>オーケストラの要、「指揮者」とは…</p> <p>⑥【指揮者体験コーナー】「君は今日からマエストロ！」</p> <p>歌の力、音楽の力、人間に与えられた素敵な楽器を使った体験を。</p> <p>⑦【共演】「オーケストラと一緒に演奏しよう！」杉本竜一:ビリーブ</p> <p>※パターンA:合唱のみ パターンB:管弦楽部または吹奏楽部のみ パターンC:合唱と管弦楽部または吹奏楽部との共演 上記の3パターンから選ぶことができます。 ※【注意】管弦楽部または吹奏楽部の皆さんと共演する場合は、本公演当日の午前中にリハーサルを実施します。</p> <p>最後はバレエの世界へ、皆様をご招待しましょう！</p> <p>⑧チャイコフスキー:バレエ組曲「白鳥の湖」より 情景・四羽の白鳥の踊り・チャルダッシュ</p> <p>校歌をフル・オーケストラと共に奏でよう！</p> <p>⑨【アンコール】開催校校歌(合唱共演)</p> <p style="text-align: right;">公演時間 約 90 分</p>																							
<p>出演者</p>	<p>指揮:坂入 健司郎/神成 大輝</p> <p>司会:竹平 晃子</p> <p>管弦楽:仙台フィルハーモニー管弦楽団(2管10型) 【編成】10-8-6-6-4/3-2-2-2/4-2-3-1/Timp,3Perc,Hp</p>																							
<p>演目の芸術上の中核となる者(メインキャスト、メインスタッフ、指揮者、芸術監督等)の個人略歴 ※3名程度 ※3行程度/名</p>	<p>指揮者)坂入 健司郎 指揮者)神成 大輝 司会)竹平 晃子</p> <p>詳細は、別添(出演者の個人略歴)をご確認ください。</p>																							
<p>本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数含む</p>	<table border="1"> <tr> <td>出演者:</td> <td>60</td> <td>名</td> </tr> <tr> <td>スタッフ:</td> <td>11</td> <td>名</td> </tr> <tr> <td>合計:</td> <td>71</td> <td>名</td> </tr> </table>	出演者:	60	名	スタッフ:	11	名	合計:	71	名	<p>運搬</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>楽器車用</th> <th>平台・PA用</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>積載量:</td> <td>4 t</td> <td>2t</td> </tr> <tr> <td>車長:</td> <td>9 m</td> <td>6m</td> </tr> <tr> <td>台数:</td> <td>2 台</td> <td>1台</td> </tr> </tbody> </table>		楽器車用	平台・PA用	積載量:	4 t	2t	車長:	9 m	6m	台数:	2 台	1台
出演者:	60	名																						
スタッフ:	11	名																						
合計:	71	名																						
	楽器車用	平台・PA用																						
積載量:	4 t	2t																						
車長:	9 m	6m																						
台数:	2 台	1台																						

本公演 会場設営の所要時間 (タイムスケジュール) の目安	前日仕込み	無	前日仕込み所要時間		時間程度	
	到着	仕込み	上演	内休憩	撤去	退出
	8時25分(予定)	8時30分～10時30分	13時30分～15時	15分	15時～17時	17時(予定)

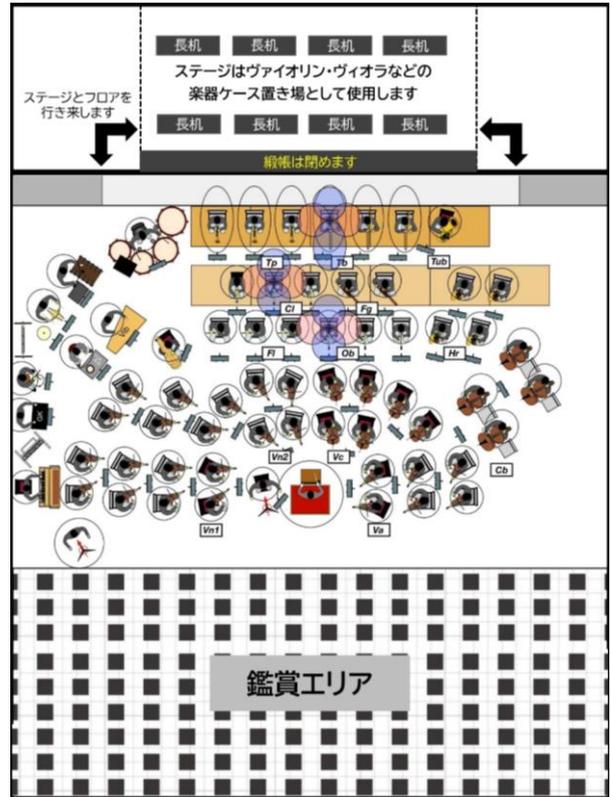
※本公演時間の目安は、午後、概ね2時間分程度です。

本公演 実施可能日数目安 <small>※実施可能時期については、採択決定後に確認します。(大幅な変更は認められません)</small>	6月	7月	8月	9月
	0日	0日	0日	2日
	10月	11月	12月	1月
	5日	3日	0日	0日
	※平日の実施可能日数目安をご記載ください。			計

公演に係るビジュアルイメージ
(舞台の規模や演出がわかる写真)

※採択決定後、図面等の提出をお願いします。

- 1.[舞台の設置場所] フロア面
オーケストラはフロア面で演奏します。
- 2.[舞台に必要な広さ]
演奏スペース:【縦】10m×【横】18m
ステージ上:楽器ケース置き場として使用
(緞帳は閉めます)
- 3.[暗幕の要否] 場合によって必要
演奏スペースに日差しが直射する場合、遮光用に使用します。
- 4.[緞帳の要否] 必要
舞台上は緞帳を閉めて、楽器ケース置き場とします。
- 5.[トラックの横付け] 必要
楽器運搬トラックは、横付けおよび敷地内への留め置きが必須条件です。
- 6.[ピアノの移動の有無] 必要に応じて有
オーケストラが演奏するスペースにある場合は事前にご移動ください。



▲配置図



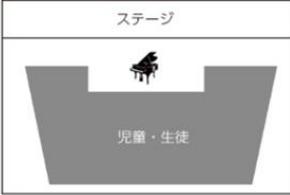
著作権、上演権利等の 許諾状況	各種上演権、使用权等の許諾手続きの要否	該当あり	該当コンテンツ名	
	該当事項がある場合	権利者名 日本音楽著作権協会	許諾確認状況	採択後手続き予定

※A4判3枚以内に収まるように作成してください。

別添	なし
----	----

【公演団体名 仙台フィルハーモニー管弦楽団】

<p>ワークショップのねらい</p>	<p>本事業の特徴ともいえる「ワークショップ」では、本公演への期待感を高め、目の前に広がるオーケストラを90分間楽しんでいただける土台を作ることをねらいとして取り組んでいきます。 オーケストラやクラシックの演奏会は難しいもの、緊張感を持って聴かなければならないものという意識を無くし、音楽を楽しんでもらえるような様々な工夫を施しながら進めていきます。例えば、楽団員の衣装については、楽団オリジナルTシャツを着ることで、視覚から明るいイメージを持っていただけるようにしたり、楽器紹介では児童・生徒の皆さんの輪の中に入り、楽器を見せながら説明することで、楽器を間近でみたり、普段聴くことのできない距離で音色を楽しむことができたりすることで、楽団員と自然にコミュニケーションを深めることができます。 ワークショップは少人数で何うからこそ、演奏者と子どもたちとの心の距離も縮められ、また本公演の時に再会できた時の喜びを分かち合えると考えております。児童・生徒の皆さんが目の前で奏でられる音楽や音楽家と向き合い、本公演に期待感を持てるような内容になるよう、心掛けていきます。</p>		
<p>児童・生徒の参加可能人数</p>	<p>ワークショップ</p>	<p>参加人数目安</p>	<p>本公演で鑑賞される児童・生徒の皆さん(全員)</p>
<p>ワークショップ実施形態及び内容</p>	<p>本公演前に行う「ワークショップ」では、下記のように進めていきます。</p> <p>① 自己紹介～楽器紹介 児童・生徒の皆さんと4名の仙台フィルの楽団員が初めて顔を合わせます。自己紹介では、出身地や楽器をはじめたきっかけなど、皆さんとの距離を縮められるような内容をお話しながら進めてきます。 その後、オーケストラの楽器群が4つに分かれていること(弦楽器・木管楽器・金管楽器・打楽器)を、楽団オリジナルの楽器紹介パンフレットを使用しながら、それぞれのグループに分けて紹介していきます。 本公演では、60人以上のフル・オーケストラが学校にお邪魔することも説明し、本公演への期待感を高めます。</p>  <p>▲楽団オリジナルパンフレットを使用して、本公演で登場する楽器について学びます。</p> <p>② 質疑応答 ワークショップを通じて、疑問に思ったことを楽団員に聞いてみましょう。 オーケストラの楽器について、プロの演奏家についてなど、多くの質問に楽団員が回答します。大勢の前で質問ができなかった、時間がなくて答えられなかったということも想定できますので、ワークショップが終わったのち、楽団から先生にWebで回答できるフォームを送らせていただきます。 その後、子どもたちの質問に対して、ワークショップメンバーが動画でお答えします。動画は本公演の2～3週間前までに学校にお送りし、本公演に向けて更に期待感を高められるように致します。 この動画は、子供たちが使用しているタブレット端末で見ることができるよう、プラットフォームとしてYouTubeを利用する予定です。</p> <p>③ ミニ・コンサート 4名の楽団員によるミニ・コンサートを聴く時間です。独奏曲や、4名全員によるアンサンブルの曲を聴いていただきます。各楽器の音色や、奏者同士が音楽を通じてコミュニケーションをとっている様子、演奏家の表情・息遣いを間近で体験することができます。</p>  <p>管弦楽部や吹奏楽部とのコラボレーションをすることも可能です。(※要相談)</p>		

<p>その他ワークショップに関する特記事項等</p>	<p>[開催時間] 各学校の時間割に則り、1時限分を基準とします。 小学校=45分間、中学校=50分間</p> <p>[派遣人数] 4名(仙台フィル楽団員3名、ピアニスト1名)</p> <p>[借用備品] ピアノ(グランド・アップライトなど、種類は問いません)</p> <p>・特別支援学校での実施の場合は、プログラムの基本的な軸は変えずに、開催校の先生方にお話を伺い、児童・生徒の皆さんに応じた内容へと変更することが可能です。</p> <p>・基本的に、右図のような配置でワークショップを行います。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>ピアノがステージ上にある場合</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>ピアノがフロア面にある場合</p> </div> </div>
----------------------------	---

※A4判3枚以内に収まるように作成してください。

別添	なし
本事業への応募理由	【公演団体名 仙台フィルハーモニー管弦楽団】
<p>本事業に対する 取り組み姿勢、および 効果的かつ円滑に実施 するための工夫</p>	<p>①本事業に対する取り組み姿勢 本物のオーケストラの演奏を聴いていただき、児童・生徒の皆さんの創造力と感性を育み、今後の芸術活動に積極的に参加していただけるようなきっかけを作れるよう、仙台フィルは本事業に取り組んで参ります。 過去に実施した公演後に送られてくる各学校からのアンケートや児童・生徒の皆さんの感想文には、「これからもコンサートを聴いてみたいです。」や「習っている楽器の演奏を聴いて刺激を受けました。」などの、前向きな声を非常に多くいただきます。本事業を通じて、鑑賞する児童・生徒の皆さんの創造力や感性を豊かにするきっかけに繋がり、子どもたちの豊かな心や文化的な伝統を尊重する心の育成に大きく繋がると確信しております。 また、学校の先生からは、「この地域でのオーケストラ公演は全く行われず、子どもたちに本物の音楽を聴かせられる機会がなかったため、本事業を開催していただいて本当に嬉しいです。」という声もいただいております。芸術を鑑賞する機会があまりない地域にも、本物の芸術を届けることが可能となり、未来を担う子供たちに、文化芸術を平等に届けることができる、とても魅力的な事業だと確信しております。 本事業最大の特徴は、「ワークショップ」「本公演」と2回に公演が分かれることです。 初めに行う「ワークショップ」では、楽団員と初めて出会う貴重な時間となり、本公演で大人数が訪れる前に、予めオーケストラについて学んでいただきます。本公演をより楽しんでいただけるような工夫を行うことで、フル・オーケストラが来ることの期待感を高め、音楽についてより興味を持っていただけるような時間になることを目指しています。 その後の「本公演」では、児童・生徒の皆さんの目の前に約60人以上のフル・オーケストラが訪れ、生演奏を聴いていただきます。例年仙台フィルのプログラムは、楽団員と共に選曲を行っており、子どもたちに音楽を鑑賞する楽しさ・素晴らしさを知っていただくためには？どのようにしたら今後の生活に繋がるのか？ワークショップと本公演という短い時間の中で、どのような体験をしていただけるか？などを踏まえて、効果的なプログラムを検討しております。今年度のプログラムでは、教科書に載っている曲や名曲と呼ばれる曲を中心に取り揃えており、様々な国や時代の作品を聴くことで、音楽性の違いや雰囲気を感じ取っていただくことができます。また、聴くだけではなく実際に合唱や楽器で共演したり、指揮者を体験したりすることで、音楽活動に触れることの楽しさを知っていただけるよう工夫して参ります。</p> <p>②事業を効果的かつ円滑に実施するための工夫 公演を効率的に進めていくため、また、先生方のご負担を減らせるよう、仙台フィルでは下記のような方法をとっております。 ●ワークショップの前には、楽団で作成した公演マニュアルをお送りし、電話での確認を行います。ワークショップ後の本公演についての打合せは、1回限りの打合せをスムーズに行えるよう、わかりやすく丁寧な公演マニュアルを作成しております。公演についての悩みもマニュアルを見ればすぐ解決できるようにし、楽団に確認する回数を大幅に減らせるようにしています。 ●学校との密な連絡を心掛けております。電話やメール、FAXでの複数の連絡手段から、学校にあった方法でやり取りをさせていただきます。 ●オーケストラの後ろに配置されている演奏者がよく見えるよう、平台でひな壇を作ります。後方に座っている児童・生徒の皆さんも、オーケストラ全体を見渡せるようにすることで、よりコンサートホールに近い環境を整えることができます。 ●近年のICT教育に則って、タブレット端末を使用して、子どもたちへワークショップ後の動画をお送りします。ワークショップで聞きそびれてしまった質問、後から気になってきた質問などを、ワークショップ後に集計し、後日共有します。 ●公演後は楽団員と公演に対しての反省・共有を行っております。90分という短い時間の中で、楽器への興味を持っていただけるような工夫を、これまで蓄積したノウハウを元に、次の日の公演に向けて改善・修正を行っております。</p>

リンク先	No.2	【公演団体名 仙台フィルハーモニー管弦楽団】
		<p>普段、体育の授業やクラブ活動、全校集会が行われていた体育館が、一晩経つと…素敵なコンサートホールに変わっています！児童・生徒の皆さんは目を輝かせながら体育館に入ってきます。オーボエの音をきっかけにオーケストラはチューニングを行うと、一瞬で会場の空気が変わる様子を体験することができます。</p> <p>①ヨハン・シュトラウス2世：喜歌劇「こもり」序曲 歌劇（オペラ）や喜歌劇（オペレッタ）の冒頭で演奏される「序曲」は、コンサートのオープニングにふさわしい期待感のある作品です。今回お聴きいただく序曲は、楽しい喜歌劇の物語を予感させるようにはじまります。中間部のワルツのリズムは、しっかりと一歩ずつ踏みしめるように鳴り響き、まるで舞踏会の世界に入った雰囲気になるでしょう。再び軽快なテンポで進み、終盤へ向かってどんどん加速していき、盛大なエンディングに向かっていく様子をお楽しみ下さい。</p> <p>②楽器紹介コーナー「オーケストラの仲間たち」</p> <div data-bbox="384 607 603 922" data-label="Image"> </div> <p>ワークショップでは限られた楽器しか紹介することができませんが、本公演ではオーケストラの楽器たちすべてが、目の前に広がります。仙台フィルでは、子どもたちの心を掴みながら楽器紹介を行います。</p> <p>オーケストラには、弦楽器・木管楽器・金管楽器・打楽器の4つのグループがあります。それぞれの奏者が皆さんの前に出てきて、普段の授業では聞くことができない楽器の仕組みや特徴についてのお話や、それぞれの楽器の音色をじっくり聴いていただきます。</p> <p>▲自分の身長より長い楽器に驚く児童。</p> <p>③ドラムマーチ（手拍子参加型） ～ スーザ：行進曲「星条旗よ永遠なれ」 楽器紹介の最後には、仙台フィル打楽器奏者がドラムマーチを演奏します。スネアドラムのリズムに合わせて、手拍子で参加しましょう。</p> <div data-bbox="868 958 1219 1189" data-label="Image"> </div> <p>手拍子が続いている中、ドラムマーチに続けて、アメリカの作曲家・スーザが作曲した行進曲「星条旗よ永遠なれ」を演奏します。そのまま手拍子を続けているため、皆さんの手拍子がテンポを刻み、演奏が進んでいきます。演奏をするうえで、「テンポ」がいかに重要かを知るきっかけになります。</p> <p>▲「星条旗よ永遠なれ」では、演奏中に楽団員が皆さんの近くまで行きます。体育館の隅から隅まで使った音楽を楽しむことができます。</p> <p>④モンティ：チャルダッシュ（楽団員による独奏） クラシックの名曲である、「チャルダッシュ」を聴いていただきます。普段の公演ではオーケストラメンバーが前に出て演奏する機会が少ないですが、この曲では右写真のように、指揮者の横で独奏者が演奏を行います。前に出てくる楽器の魅力を感じていただける絶好の機会です。</p> <div data-bbox="884 1375 1219 1581" data-label="Image"> </div> <p>また今回の公演では、 ・公演地にゆかりのある団員 ・若きフレッシュな団員 ・ワークショップに訪れた団員 などを中心に、独奏者を選定します。 オーケストラの前で堂々とした姿で演奏する姿は、子どもたちに大きな印象を与え、ワークショップで演奏した団員と再会できる、素晴らしい機会です。</p> <p>⑤ベートーヴェン：交響曲第5番「運命」より 第1楽章（楽曲解剖つき） 後半は、音楽の授業で必ず習う歴史的な作曲家であるベートーヴェンが作曲した、交響曲第5番「運命」から再開します。 この曲では、運命のモチーフ（動機）とも呼ばれる「ジャジャジャーン」の音型が、作品の中で音や形を変えて何度も登場します。演奏に先立ち、実際に運命のモチーフがどのように登場するのか、またこのモチーフがのちの作曲家に与えた影響などについて実演を交えながら指揮者が解説を行い、更には、運命のモチーフが第1楽章の中で何度出てくるかを数えながら演奏を聴いていただくことで、より曲に集中して聴いていただけます。</p>

⑥【指揮者体験】「君は今日からマエストロ！」

ベートーヴェンの名曲を聴いていただいたあとは、オーケストラのまとめ役である指揮者にスポットを当てて紹介いたします。プロの指揮者が指揮者の役割を説明した後に、実際に児童・生徒の皆さんの中から2名に体験していただきます。約60人のプロの演奏家をまとめる指揮者の役割を体験できる、貴重な経験です。

子どもたちの体験後は、先生にサプライズで登場していただきますが、ここでは先生と子どもたちの更なる円滑



なコミュニケーションを図るきっかけや関係性を築くための一助となることも目的のひとつとしています。また、プロの指揮者、児童・生徒代表の2名、先生1名の合計4名の指揮者が同じ楽曲を指揮することにより、それぞれの指揮者によって演奏の表情やテンポが変わる部分に注目しながら聴くことができ、オーケストラにとって重要な役割を指揮者が担っていることを理解していただきます。

⑦【共演】「オーケストラと一緒に演奏しよう！」 杉本竜一:ピリープ

オーケストラを伴奏と一緒に歌う企画です。今回は、管弦楽部や吹奏楽部での共演も可能です。プロの演奏者と共演することは滅多にできることではありません。音楽を通じたコミュニケーションを図ることができたり、演奏をするうえでの技術や表現などを近い距離で体験できたりと、様々な体験をすることができます。会場にいる皆さんとひとつの音楽を作り上げる、普段の生活では体験することのできない素敵な時間を作りあげましょう。

⑧【チャイコフスキー:バレエ組曲「白鳥の湖」より 情景・四羽の白鳥の踊り・チャルダッシュ

「白鳥の湖」は、ロシア出身の作曲家チャイコフスキーによって作曲されたバレエ音楽です。「眠りの森の美女」、「くるみ割り人形」とともに、チャイコフスキーの三大バレエの一つとして数えられており、その3作品の中で初めて作曲されたのがこの「白鳥の湖」でした。

【あらすじ】

この物語の主人公であるジークフリート王子は、明日の王宮の舞踏会で花嫁を選ぶように王子の母に言われます。まだ結婚したくない王子はゆううつな気分のまま湖に行くと、悪魔の呪いで白鳥の姿になっていた娘たちが、月の光によって白鳥人間の姿に変わっていく様子を見てしまいます。

王子は、その中でひととき美しいオデット姫と恋に落ちます。しかし、呪いを解くには永遠の愛が必要だと知った王子は、オデットを舞踏会に招待し、そこでオデットに愛を誓うと、約束を交わします。

次の日の夜、王宮の舞踏会には、オデットそっくりな悪魔の娘オディールが現われました。彼女をオデットだと思い込んだ王子は、間違えてオディールと愛を誓ってしまいます。その様子を見て絶望したオデットは、湖へ走り去ります。その後、悪魔に騙されたことに気づいた王子は、急いでオデットのもとへ向かいます。

湖にて、命を絶とうとするオデット。もう王子とは結ばれないことを嘆き、湖に身を投げてしまいます。その様子を見た王子も覚悟を決め、オデットの後を追います。すると、二人の愛によって悪魔は滅び、王子とオデットは無事に結ばれる、という物語です。

今回は管弦楽のみで演奏される演奏会用組曲の中から、「情景」「四羽の白鳥の踊り」「チャルダッシュ」の3曲を続けてお聴きいただけます。

「情景」弦のトレモロ(弓を細かく動かし音を小刻みに鳴らす奏法)にのって、有名な「白鳥の主題」がオーボエのソロで現れます。この主題は、いわば、このバレエのシンボルです。白鳥の姿に変えられた悲しみを表しているようです。

「四羽の白鳥の踊り」ファゴットのおどけたリズムにのって、2本のオーボエが親しみやすい旋律を軽快に奏でます。小さな白鳥たちの踊りで、実際のバレエでは4人の女性が手を交差して組み、コミカルだけれども技巧的に踊る場面です。

「チャルダッシュ」ハンガリーの踊りともいわれる、ジプシーの民俗舞曲で、「ラッサン」と呼ばれるゆつくりとしたテンポと、それとは対称的に急速で情熱的な「フリスカ」と2部構成となっています。途中からリズムが活発になり、テンポも急に速くなってそのまま熱狂的に終わります。

⑨【アンコール】開催校校歌(合唱共演)



世界にたった一つしかない皆さんの学校の校歌を、今回は特別にフル・オーケストラ編成にアレンジします。普段から歌っている校歌だからこそ、皆さんの思い出に強く残ることは間違いありません。演奏会の最後をオーケストラと皆さんで共に盛り上げましょう。

◀ 校歌を歌う際は、指揮者が皆さんの方を向いて指揮を振ります。指揮者・オーケストラ・そして歌う皆さんが一つになる瞬間です。

